



【発行】

偕行会リハビリテーション病院

医療相談課

〒490-1405 弥富市神戸5丁目20番地

TEL 0567-52-3883 FAX 0567-52-3885



『新年度を迎えるにあたり』

昨今リハビリ医療においては多くの研究や技術革新により、リハビリテーション分野でも次々と新しい治療方法が実用化されており、当院でもこれらの技術を積極的に取り入れ、患者様一人ひとりに合わせた最適な運動プログラムによりリハビリ医療を提供しています。例えば、最新型のリハビリ機器を活用したプログラムに痙縮治療も組み合わせたり、患者様に合わせた効果的なリハビリが提供できるよう工夫しております。また、患者様のモチベーションを高め、楽しみながらリハビリを行えるよう VR（仮想現実）技術を取り入れたリハビリも実施しております。これにより退屈さを感じることなく、リハビリを行うことができ、心理的な負担も軽減される効果が期待されています。今後も最先端の技術とリハビリ機器を活用し、リハビリテーションの効果を一層高め、患者様のより早い回復に努めてまいります。

春の新しいスタートに合わせて、スタッフ一同心機一転、より一層の努力をもって患者様の回復をサポートしてまいります。そして患者様が一日でも早くご自宅での生活を取り戻せるよう全力でサポートさせていただきますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



院長 田丸 司

透析室より～災害時伝言ダイヤルについて

災害時伝言ダイヤルとは、地震・津波などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される「声の伝言板」です。当院では、災害時利用が出来るようになった場合に、透析が行えるかどうかをお伝えする為に使用します。災害時の利用方法は以下の通りです

- ① 「171」に電話をかける
- ② 電子音声の案内に従い再生の「2」を押す
- ③ 当院透析室の「0567-52-1228」を押す ⇒当院が残した伝言を再生することができます。

※注意点※ 基本的に当院が患者様に対して伝言を残すことに使用するため、患者様からの伝言を残すことは、ご遠慮ください。詳しい利用方法は NTT のサイトにある「災害時伝言ダイヤル」をご確認ください。



今年度の学会発表・論文投稿

期間	学会	発表者
2024.5.9	第 32 回 愛知県作業療法学会	宮田帆乃香
2024.5.19	第 32 回 愛知県理学療法学会大会	澤島佑規 佐藤直弘
2024.6.1-6	The 18th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM)	戸嶋和也
2024.6.13-16	第 61 回 日本リハビリテーション医学会学術集会	小林未奈 野口貴弘 戸嶋和也
2024.7.20	第 14 回 コンプリヘンシブ・リハビリテーション懇話会	坂本美貴
2024.8.23-26	The 17 th International Convention on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology (i-CREATE 2024)	戸嶋和也
2024.9.7-8	第 40 回 東海北陸理学療法学会大会	溝脇亮 奥田翔吾 佐藤直弘
2024.9.14-15	第 23 回 東海北陸作業療法学会	川口悠子 内田有沙 上地朱音
2024.9.28-29	第 22 回 日本神経理学療法学会学術大会	伊藤剛 澤島佑規 溝脇亮 小林広空
2024.10.3-4	リハビリテーション・ケア合同研究大会 山梨 2024	森戸裕也
2024.11.6-9	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC2024)	野口貴弘
2024.11.2-3	第 36 回日本リハビリテーション看護学会	小笠原 広実
2024.12.14	愛知県理学療法士 西三河支部研修会・症例検討会	力野和樹
2025.2.1-2	日本物理療法合同学術大会 2025	溝脇亮 小林広空
2025.2.21-22	第 45 回 回復期リハビリテーション病棟協会 研究大会 in 札幌	北村夏子 西川恵美 清水彩夏
2025.2.23	偕行会看護発表会 わたしたちの看護を語ろう	安井あゆ美 坂本美貴

雑誌	執筆者
愛知県作業療法 第 33 巻	宮田帆乃香
IEEE Journal of Translational Engineering in Health and Medicine	戸嶋和也
作業療法・43 巻 3 号	川口悠子

訪問看護「ふわり」より



退院後にお困りのことはありませんか？

入院中は安定していた体調やリハビリの成果も退院して数カ月、1年、2年・・・と変化していきます。

例えば・・・

- ・家でも付きっきりの事が増えてきた。
- ・転倒して皮膚に傷ができた。なかなか治らない。
- ・巻き爪が悪化し、膿んできた。
- ・定期的に飲んでいた薬を最近よく飲み忘れるようになった。
- ・麻痺のある手足がなんだか、かたくなってきた。
- ・デイサービスに行きたがらず、休みがちになってきた。
- ・便がすっきり出ない。便秘がち。
- ・家にいるとテレビばかりみていて動かない。
- ・歩くスピードや体力が落ちてきたような気がする。

この中で当てはまる項目はありませんか？

また、退院したら一人暮らしになる、家事はできるのかなど
医療的な側面だけでなく暮らしに不安を抱えていませんか？

例えば・・・

- ・簡単な食事を作りたいけれど火の元や包丁を使うことが心配・・・。
- ・トイレ・オムツ指導を受けたけれど自宅で同じようにできるか不安。
- ・自分でも掃除機がけや洗濯などの家事をやってみたい。

偕行会リハビリテーション病院
訪問看護のご案内

退院してから1カ月程度は、ご自宅での生活に慣れるまで様々な問題や不安が出てくることが多いです。
(アンケート結果より)

当院では、ご自宅へ退院した後も、当院の訪問看護師が訪問する事が出来ます。

日々出てくる悩みや困りごとに直接対応致します。
入院中に携わった、担当スタッフとも連携をとり暮らしのサポートを行います。

退院を前にして、
こんな心配はありませんか？
例えば (ご本人含め、介護者の方)

- ・お薬の飲み忘れや管理に不安がある。
- ・退院後の生活で、必要なレンタル物品やスケジュール、決め事などを話し合ったが、実際の生活で実行できるかどうか不安がある。(飲み忘れや食事形態について、多歩行に見守りが必要など)
- ・退院後、環境や活動量が変わり、体力が落ちないか、認知症にならないか(症状が進行しないか)など心配がある。
- ・排便についての悩みがある。(下痢を数まないし便秘がないなど)
- ・暮らしの対応をしてほしい。

まずは、退院後1カ月の訪問を日家にサポート体制を整えてあります。
(訪問頻度は要相談、必要があれば、継続的にご利用が可能です)

私たち偕行会リハビリテーション病院の訪問看護は全員回復期病棟で勤務していた看護師です。

入院中に携わった担当スタッフとも連携を図ることもできます。

ご自宅に訪問した際、家事動作の確認や生活リズムを整えたいなど

暮らしの相談をお受けすることもできます。

当院のロビーに訪問看護のご案内も掲示してあるため、

来院されたときはご覧になってください。



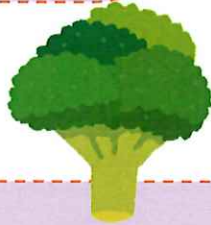
栄養士がおすすめる今日のレシピ！



鯖とブロッコリーのペペロンチーノ風炒め

材料 (2人分)

・鯖	2切れ
・塩	少々
・ブロッコリー	中1個
・ミニトマト	8個
・鷹の爪	1本
・にんにく	2片
・オリーブオイル	大さじ2
・塩コショウ	少々



作り方

- ① 鯖を一口大にカットし塩少々をまぶし 10 分置いておく
- ② ブロッコリーは洗い小房にカットする。耐熱ボウルにカットしたブロッコリーと水(分量外・大さじ 1)を入れラップをかけ、600wのレンジで3分加熱する。(時間は好みの固さで調節してください)
- ③ 鯖の水気をキッチンペーパーでふき取り、オリーブオイルを入れ加熱したフライパンに皮目を下にして入れ、焼き目が付くまで焼く。ひっくり返し火が通ったら別の器に出しておく。
- ④ 鯖を出したフライパンにみじん切りにしたにんにくと輪切りにした鷹の爪を加え香りが出るまで炒める。
- ⑤ 香りが出たら鯖、ブロッコリー、ミニトマトを加え全体を混ぜ合わせ塩コショウで味を整える。

鯖の豆知識



鯖には旬の時期が 2 回あります。

関東では冬(12月～2月)が旬とされ、関西では春(3月～5月)が旬とされています。

鯖に含まれる EPA や DHA は、脳を活性化させると言われ、記憶力や学習能力の向上が期待できるおすすめの栄養素です。

また、魚類の中ではカリウムの含有量が多いのも特徴で、体内の余分な塩分の排出を促すことから、血圧を下げる効果も期待できます。

パスタを入れたり、オリーブオイルを多めに入れたらアヒージョに、あさりと水を加えて煮込めばアクアパッツァにとアレンジができます。色々お試しください。

完全側臥位法ってなに？ 3 回目



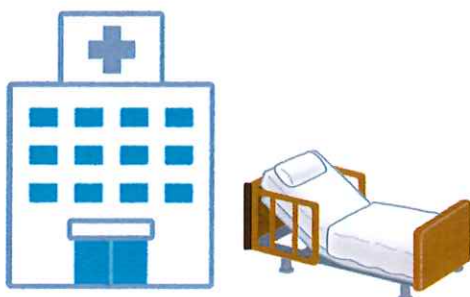
これまでご紹介した「完全側臥位法」ですが、安心して特別な道具も不要です。この姿勢を当院入院中に終了してリクライニング車椅子や座位での食事に移行できれば問題ないのですが、リハビリを頑張っても「完全側臥位法」でしか誤嚥を予防できないという患者さんもいます。当院近隣の生活期サービスを調査しても「完全側臥位法」を行っている事業所はなかなか見つかりません。当院医療相談員が苦勞して退院先を探していますが、全国的にも見つけるのは難しいようです。「完全側臥位法」を引き継いで頂ける事業所が見つからず経口摂取を断念した症例が何例もありました。胃ろうを増設し経管栄養に逆戻り、という症例も経験しました。

ここで、当院の症例を紹介したいと思います。80 代男性、Covid-19 による肺炎後廃用症候群、急性期病院で嚥下内視鏡検査を実施した上で経口摂取は困難と判断され胃ろうを増設され当院に転院されました。病前は脳梗塞の既往と難聴と認知症がありました。麻痺は軽度で奥様やご家族のサポートによりデイサービスを利用して自宅で生活をされていました。当院入院中は発話のない日が多く、難聴の為文字を書いて質問しても頷くばかり、趣味の読書をしていても閉眼してしまいぼんやりと過ごしていることが多かった方です。嚥下造影検査を受けて頂きましたが覚醒が悪く精査ができず、ご家族の了承を得て昼食のみ「完全側臥位」でゼリー食を提供することにしました。最初は「完全側臥位」で食べているうちに眠ってしまい、食事摂取量は不十分でした。毎日昼食のみ続けていると、どんなに眠くても食べられるようになり、食事がお皿に残らないように丁寧にすくって 20 分かけて自己摂取で完食できるようになりました。調子のよい時は食事ができたことへの感謝の気持ちを述べられ、そうでない日は食後すぐに眠ってしまいました。ご家族によると



出されたものは絶対に食べる方とのことで、食べる事の大切さを感じさせてくださる方でした。ご家族はとても熱心な方で、「完全側臥位」で食事を継続できる生活期サービスを県内あちこち探され続けました。残念ながらご希望に合う事業所が見つかりませんでした。このように、回復期で集中的なリハビリをし、生活期へ移る際に社会的な資源不足が原因で“ソフトランディング”できなかったことはとても悔やまれます。

新しい方法を取り入れることはとてもハードルが高いですし、難しいコツがあるのではないかと躊躇したり、やり方を知りたいけど分からない方が近くにいらっしゃるのかもしれない、と思います。百聞は一見に如かず、是非当院へ見学に来てください。対象の方がいらっしゃいましたら、随時見学の対応をいたします。



病棟レク ～名古屋弁かるた～

1 月 22 日に病棟でのレクリエーション活動として「名古屋弁かるた」を実施しました。読み札は全て名古屋弁であり、読み上げる患者様は、「こんな読めれんわ～」と言いながらも大きな声で読んでおられました。カルタを数枚取れた患者様は「やった!!」と喜んでおられ、「なんだあ～あっちのテーブルの方がよう読まれとるけど～」と悔しがっている姿もありました。遠慮気味だった方も最後には熱心に取り組んでおられました。日々のリハビリの合間に楽しいひと時となりました。



看護部 事例発表会 開催

看護部の第 3 回事例発表会を開催しました。看護のすばらしさを感じとることのできた事例発表会でした。現場で実践した事を言語化していくなかで、自分では気が付かず、隠れている看護をみつけ言語化できると、どんどん話しを聞かせてくれるようになって目がキラキラしていました。その過程をみての発表している姿は、大きく成長した姿でした。

教育支援室 佐藤和加子



【私たちの基本理念】

- 1、患者のための医療を目指します。
- 2、他の医療機関と連携して、地域医療の発展を目指します。
- 3、教育・研究を重視し、職員の自己研鑽に努めます。

医療法人偕行会 偕行会リハビリテーション病院

〒490-1405 弥富市神戸5丁目20番地
TEL 0567-52-3883 (代表) FAX 0567-52-3885



ホームページ
はこちら



最新の情報、載ってます!

Follow us!!



Instagram

facebook



KAIYUKAI_REHABILITATION_HOSPITAL